

人物

入門書まで出したプーチン、柔道への想い

# OKした東京五輪応援

柔道家として知られるプーチン首相の柔道入門書が、日本でも出版された。柔道が取り持つ縁で、東京五輪招致にも協力するという。



12日の出版報告会で、山下泰裕氏(左)がプーチン首相に著書の日本語版を贈った。首相は感謝し、「日本の発展のために」と乾杯の音頭をとった。

無敵の王者は感激していた。柔道のロサンゼルス五輪金メダリスト、山下泰裕氏(51)である。「私はどちらかといえば、右寄りの人間。でも、日露友好のためなら、汗をかかなきゃいかん、

5月12日夜、都内ホテルの一室で、二人は向かい合った。山下氏が切り出した。「一つ、お願いがあります」

2016年に東京へ五輪を招致したい。力を貸してください。畳み掛けるように具体的な「お願い」をしていった。首相は身を乗り出し、耳を傾けた。「期待をはるかに上回る、うれしい答えが返ってきた。二人の間の話だから、内容は明かせないけれど」(山下氏)

そのプーチン氏が喜んで会う日本人が3人いる。森喜朗元首相、トヨタの奥田碩元会長、そして山下氏だ。

## 山下氏に何度も感謝

「世界の下」の心を揺さぶったもの。それは先週末日したロシアのプーチン首相(56)が示してくれた厚意だった。

総会前夜のパーティーではプーチン氏に握手、記念撮影をせがむ委員やその家族が長い列を作った。手持ちぶさたの盧武鉉韓国大統領(当時)が気の毒になるほどだった。投票前のプレゼンテーションでは、英語とフランス語を駆使して、国家による全面支援を約束。一気に、逆転への流れを作った。

力だけがものをいう路上のケンカから、ルールに縛られるスポーツへ。プーチン少年の成長物語と、暴れん坊だった泰裕少年が小学4年で柔道を始め、世界王者を目指す姿は重なる。

## 五輪招致で実績アリ

2000年から8年間、ロシア大統領を務めたプーチン氏は昨年、首相になり、メドベージェフ大統領と双頭体制をしく。「五輪政治」では実績がある。07年7月、グアテマラ市で開かれた国際オリンピック委員会(IOC)総会。14年の冬季五輪開催地を決める投票で、ロシアのソチが勝利した。ライバルは韓国の平昌、オーストリアのザルツブルク。平昌有利の情勢を覆した背景では、プーチン大統領(当時)がフル回転していた。

来日直前にはプーチン氏が仲間2人と執筆し、山下氏が編集に携わった「プーチンと柔道の心」(朝日新聞出版)が刊行された。原題は「プーチンと柔道の心」。ロシア人向けに、柔道の歴史や技術、練習法を説いた

本格的な入門書だ。日本語版出版に際し、山下氏が柔道家プーチンとの交遊について書き加え、元NHKモスクワ支局長の小林和男氏(69)がプーチン氏と柔道の恩師へインタビューした。柔道を始めた経緯を、こう語っている。「私は子供の頃不良だったので(中略)周りの世界でいい顔をするために、私はいろいろな方法で体を鍛えようとした。(中略)ただ、柔道に辿り着いて、私は変わりました」